



Socio express

エクスプレス

社会科教育法

中学校社会科における新聞活用の方法／藤本将人

②

授業実践レポート

3 ステップによる日本地理「動態地誌」の授業実践／岡田祐之

⑥

流行歌を活用した戦後史学習／奈良県公立中学校教諭

⑧

公民的分野における ICT を活用した協同学習の授業実践／歳納隼人

⑩

教育出版

中学校社会科における新聞活用の方法

藤本 将人



●ふじもと まさと／北海道教育大学准教授

●1. 新聞を活用した授業の実践上の課題

社会科において新聞を活用した授業を構想する際に、私たちはどのような手立てや方法を用いればよいのでしょうか。

中学校学習指導要領社会(平成24年4月から完全実施)には、「新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用すること」という文言が示されています。この文言を受け、新聞記事などから情報を集め、集めた情報を使いこなす力を社会科授業において育むことが求められることとなりました。さらに、言語活動の充実を図るために、「観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表する」という文言も示されたことにより、表現力もあわせて育成することが求められることとなりました。

新聞の活用や言語活動の充実、表現力の育成に関する指導が求められている一方で、日常的に新聞に接する機会が少なくなっている家庭が増えているようです。生徒たちにおいても新聞に対するなじみが薄くなっているため、従来のように記事を示しても、紙面構成や読み方から教えなければ授業として成立しなくなっています。新聞を用いて授業を行うことに不安を感じている教師も多く、現状では十分な指導のための準備が整っているとは言い難い現状があるのだと考えられます。

本小稿では、これらの課題を乗り越えるた

めに、筆者が北海道の中学校の先生方と一緒に取り組んだ新聞活用に関する研究成果の一端を紹介したいと思います。

以下では、新聞活用に関する手立てを四つの類型で説明し、さらに言語活動の充実、表現力の育成という目標に引き付けてジグソー学習の採用を提案します。それでは研究の実際と意義について説明していきましょう。

●2. 新聞活用の手立てを指定してみよう

研究会を開き、侃々諤々話し合いを重ねることは重要でしょう。しかし、いざ新しい授業を開発しようと試みてもなかなか生産的に授業化することができなかった、という経験をおもちの先生方は多いのではないのでしょうか。

授業開発の方向性を見定める時には、生徒たちが社会を認識する手順と程度を予め仮として決定しておき、指導案の改定や実践を重ねる中でその手順と程度を漸次的に修正・発展させ、最終的に確定していくというやり方を採用した方が生産的であると考えられます。

本研究においてもまずは表1に示すような新聞活用の手立てを四つ指定し、本当にその通り授業を開発、実践していくことができるのかを検証し確かめながら進めていくこととしました。授業開発の手順として、まずは第Ⅰ類型の開発と実践に取り組みます。生徒たちの成長を踏まえて第Ⅱ類型へ、そして第Ⅲ類型へとチャレンジし、最終的に第Ⅳ類型の

	記事内容確認	記事内容解釈
単一記事	単一記事・記事内容確認型 (第Ⅰ類型)	単一記事・記事内容解釈型 (第Ⅱ類型)
複数記事	複数記事・記事内容確認型 (第Ⅲ類型)	複数記事・記事内容解釈型 (第Ⅳ類型)

❶ 表1 新聞活用の手立て

授業が成立すれば、新聞活用、言語活動、表現力育成に関する授業が成立したと捉えることとしました。

(1)第Ⅰ類型：単一記事・記事内容確認型

措定した手立ての一つめは、学習テーマに関する記事の一つだけ取り上げ、その記事に書かれている内容を単に確認することをねらいとする授業を開発するというものです。

単に確認する、と書きましたが、実際に第Ⅰ類型の授業を実践するにもさまざまな工夫が必要でした。先に日常的に新聞に接する機会が少なくなっている家庭が増えていると指摘しましたが、検証授業では、それまで新聞記事を真剣に読んだことのない生徒たちの多さに改めて気づかされることとなりました。

単に記事を印刷し配付するだけでは授業として成立しない現状を踏まえて、再検証する授業では、図1のように記事を資料化する作業を加え解説することとしました。紙面には主見出し、わき見出し、リード文、写真、本文記述などがあり、それぞれの機能を利用すれば、より速く正確に内容を把握することができ理解させました。

(2)第Ⅱ類型：単一記事・記事内容解釈型

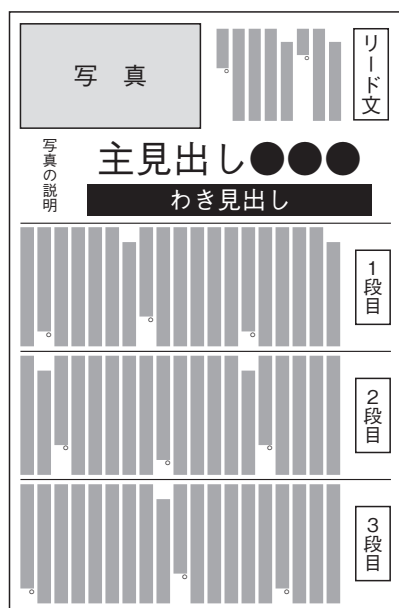
手立ての二つめは、記事の一つを取り上げ、その記事に書かれている内容を踏まえて、自分の意見を表明することをねらいとする授業を開発するというものです。

第Ⅰ類型の授業を繰り返した結果、紙面構成に慣れ、読む速度が上がりました。記事の内容を把握することで、現実社会で起こっているできごとと教科書に記載されている知識との接点を見いだすことができるようになります。

具体的現実を伝えて個別的に社会の様子を説明しようとする新聞記事の理解は、抽象的用語を用いて集散的に社会の様子を説明しようとする教科書の理解を補完してくれます。理解したことに対して、自分はどのようなことを考えるのか、実際の社会に出た時にどのような行動を起こすことができるのかを表明させれば、将来有能な市民として活躍するための基礎的な訓練となります。

(3)第Ⅲ類型：複数記事・記事内容確認型

手立ての三つめは、記事を二つ以上取り上



❶ 図1 紙面構成の例

げ、それらの記事に書かれている内容を比較・検討することをねらいとする授業を開発するというものです。

同じテーマで書かれた二つ以上の記事を読むということは、必然的に記事の内容を比較することになります。同じ記者が書いた同じテーマの記事であっても、発刊日時に差異があれば、新しい記事ほどできごとに関する新規の情報が付加されているか、または解釈が変化していることに気がつくはずです。

また同じテーマを扱った異なる新聞社の記事を取り上げ読み比べれば、記事に込められた新聞社としての主張が異なっていることに気がつくはずです。記事の比較は込められた見解を相対化させ、全ての記事には必ず書き手の意識が反映されていることを生徒たちに理解させることができます。

第Ⅲ類型の授業を繰り返すことによって、活字になっている情報が、全てにおいて真実というわけではないということを生徒たちに知らせることができるでしょう。実際の検証授業でも、この訓練を基盤に批判的に物事を考えるという思考を生徒たちに理解させることができたのではないかと考えています。

(4)第Ⅳ類型：複数記事・記事内容解釈型

手立ての四つめは、記事を二つ以上取り上げ、それらの記事に書かれている内容を比較・検討の後、自分の意見を表明することをねらいとする授業を開発するというものです。

第Ⅲ類型の授業を繰り返しこなすことができるようになった生徒たちは、最終的に各々意見を表明するということに対して、躊躇することがなくなります。たとえ、自分の意見

に対して批判を投げかけられたとしても、それを成長のチャンスと捉え、新しい情報と解釈で自分の考えを再構築するようになるでしょう。構築した考えは、自らが次の行動を起こす際の根拠となっていきます。

このような訓練の最中に垣間見える生徒たちの姿は、市民として生きる人々の日常の姿そのものです。第Ⅳ類型は、真正の社会経験を授業として成立させ、実践することを意味しています。

●3. 社会科の学力と新聞活用との関係

第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳの類型の流れは、生徒たちが社会を知る、または社会でできることの段階性を示しているのと同時に、教師による授業づくりの方向性を示唆しています。

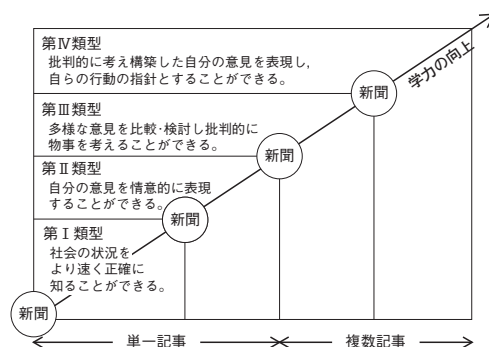


図2 社会科の学力と新聞活用との関係

第Ⅰ類型では、社会の状況をより速く正確に知ることができる力を育成する。第Ⅱ類型では、状況を知ったうえで自分の意見を情意的に表現する力を育成する。第Ⅲ類型では、多様な意見を比較・検討し批判的に物事を考える力を育成する。第Ⅳ類型では、批判的に考え構築した自分の意見を表現し、自らの行動の指針としていく力を育成する。

授業における社会科の学力は、図2に示すような入れ子構造として表すことができます。本研究においては、それぞれの学力の向上を接続する機能を新聞が担っているといえるでしょう。

●4. 第Ⅳ類型の実践事例

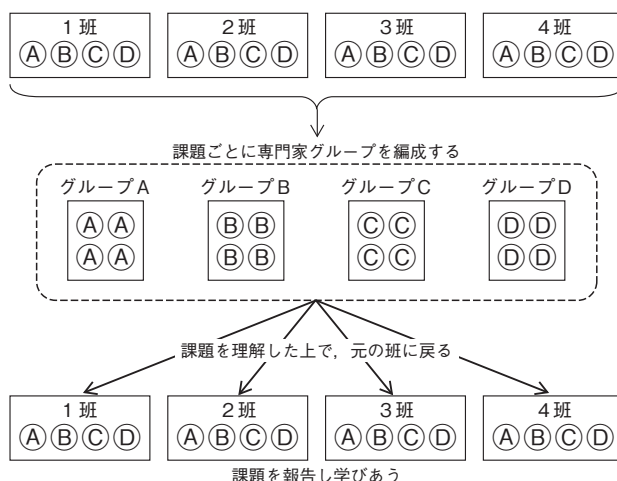
最後に、本研究の最終到達点と考えている第Ⅳ類型の実践事例を示しておきましょう。

この授業は、検証授業として2013年10月23日に北海道釧路市立富原中学校で実践されたものです。実践者は細野歩教諭(現北海道教育大学附属釧路中学校教諭)です。

本授業の目標は「新聞記事の内容から、裁判員制度の成果や課題について読み取ることができる」「裁判員制度の継続か廃止かについて新聞記事を活用し自分の意見を表明することができる」というものでした。

細野教諭は、授業の導入において「裁判員制度は継続すべきか、廃止すべきか、自分の考えを書こう」と生徒たちに投げかけます。その後、裁判員制度について意見しているA、B、C、Dの四つの新聞記事を配付し、記事の内容を確認する作業と意見交流を円滑に進めるために、図3に示したようなジグソー学習を生徒たちに指示します。

細野教諭は、同じ課題(新聞記事A～D)を有する者どうしが「専門家グループ」をつくり、「専門家グループ」として集まった生徒どうしが協力し、課題を検討するよう指示します。そして課題を他者に説明できるように各自が理解できたことを確認したうえで、元の班に戻らせます。他の生徒たちと内容の共有を図るために、班内において互いに理解



❶ 図3 ジグソー学習の編成

した内容を説明させます。

各班において、記事内容を比較・検討した後、自分自身はどう考えるのかを表明させ、交流の後、授業を閉めるという流れです。

この授業では、第Ⅳ類型の特徴である、複数記事を取り上げる、記事の内容を比較・検討する、自分の意見を表明させることに成功しています。50分という時間制限の中で目一杯、新聞活用、言語活動、表現力育成に関する指導を行った事例として評価できると考えています。

●5. まとめ

以上のように、新聞活用の手立てとしては、四つの方法があると考えられます。新聞記事の使い方を分類することで、生徒に身につけさせたい力に合わせ、どんな記事を選べばよいのか、段階的に活用するにはどうすればよいのか、わかりやすくなると思われます。指導上の留意点として参考になれば、本研究にも意義があったと思っています。

3ステップによる日本地理「動態地誌」の授業実践 ～中国・四国地方を例に～

岡田 祐之



●おかだ まさゆき／神奈川県横須賀市立走水小学校教頭

●1. はじめに

経験年数6年未満の教師の割合が急増している中、教科指導に関する悩みや相談を受けることがこれまで以上に多くなってきた。その相談内容のほとんどが地理的分野、特に以下のような「動態地誌」に関することである。

- ・「動態地誌とは何か」という基本的な疑問
- ・単元指導計画、評価計画についての疑問
- ・「おさえるべき基礎知識」についての疑問

動態地誌に正面から向き合って真剣に取り組もうと思うほど、上記の壁は厚く感じるようである。私も昨年度、初めてこの動態地誌を授業実践したが、やはり試行錯誤のくり返しであった。今回は私が今年の1月に行った研究授業を中心に、動態地誌の実践報告をしたいと思う。動態地誌に対する一つの提言と受け取ってもらい、今後の指導にむけて少しでも参考にしていただければ幸いである。

●2. 動態地誌の捉え方

単元における学習過程を構成する上で留意することは、「日本の諸地域の学習の直接的な目的は各地方の理解にあること」「各単元に一つの中核的事象をあてはめること」の2点といわれている。そこで私は、各単元を次のA～Cの三つのステップで構成した。

- A・・・○○地方の基本的特色の理解
- B・・・中核的事象に基づく追究と考察
- C・・・○○地方の全体的特色と未来像

今回は上記3ステップで取り組んだ具体的

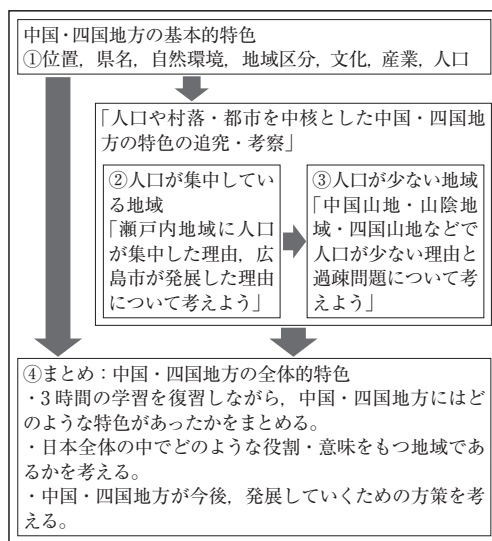
実践例として、中国・四国地方を取り上げる。

●3. 具体的実践例

ア) 単元名：中国・四国地方

イ) 中核的事象：人口や都市・村落を中核とした考察

ウ) 単元構成図：以下の通り



エ) 単元指導計画(①～④)：

①授業テーマ「中国・四国地方を眺めてみよう！」

課題Ⅰ「中国・四国地方と聞いて思い浮かぶことを書き出そう。」

課題Ⅱ「中国・四国地方の地形の名前を書いてみよう。」

課題Ⅲ「鳥取市、広島市、高松市、高知市の気温・降水量を比較し気候の特色を考えよう。」

課題Ⅳ「中国・四国地方の人口分布の地図を見て、特色について、わかることを書き出そう。」

②授業テーマ「広島にはなぜ人口が集中したのか？」

課題Ⅰ「(アメリカが終戦直前に作成した広島の地図を活用)この地図を見て気づくこと、疑問を書き出そう。」

課題Ⅱ「広島市の人口の推移のグラフを見て、気づくことや疑問を書き出そう。」

課題Ⅲ「授業をふり返り、広島市の人口が増加した理由を考え自分の言葉で表現しよう。」

③授業テーマ「魅力ある町をつくろう！」(研究授業で公開)

課題Ⅰ「(徳島県上勝町の写真を活用)写真を見て気づくこと、疑問を書き出そう。」

課題Ⅱ「どうして上勝町は過疎化が進んだのか、理由を考えよう。」

課題Ⅲ「過疎化が進む上勝町が抱えた問題点とは何だろうか、考えよう。」

課題Ⅳ「上勝復活プロジェクトを作成しよう！」

課題Ⅴ「上勝町を学習して感じたこと、考えたことを書いてみよう。」

④授業テーマ「中国・四国地方をまとめよう！」

課題Ⅰ「これまでの授業をふり返り、中国・四国地方の特色を書き出そう。」

課題Ⅱ「学習内容をふり返り、日本全体における中国・四国地方の特色(役割)を適切なキャッチコピーで表わそう。さらに中国・四国地方の未来像をキャッチコピーで表現し、今後発展していくための方策を考えよう。」

●4. おわりに

実践例③課題Ⅴに書かれた生徒の意見を紹介する。

・この授業に参加してとても感動しました。

でも、ここまでやれたのは、きっと上勝町のみなさんの復活にかける強い気持ちがあったからだと思います。自然を生かして、葉っぱを売るという考えは私にはまったくなかったです。この上勝町のがんばりを見て、なんだか勇気をもらいました。

- ・上勝町のがんばりや取り組みが日本中に広まって、活気がよくなったらいいいと思いました。上勝町は、本当にいろいろ取り組みをしてすごいと思いました。都市の発展もいいけれど、こうした農村を支えないと、日本は本当の意味で発展しないと思います。
- ・日本全体で少子高齢化が進んでいる中、まだまだ過疎が進んでいるところがあります。その町をどう再生していくのが、今後の日本全体の課題だと思います。それに、このまま進行していくと、もっと過疎が増加していくと思うし、人口がどんどん減少していくと思います。上勝町の取り組みを参考に、具体的な対策をうつことが必要だと思います。この人口問題は、上勝町だけではなく、日本全体の課題だと考えるべきだと思います。

上記の意見にみられるように、生徒はこちらの予測をはるかに越える反応を示し、たいへん前向きに人口問題について考えた。

実は、生徒たちが暮らす横須賀市も、近年、人口減少に歯止めがきかず、大きな地域課題になっている。今回は授業時数の関係で適わなかったが、本単元で学習したことを基礎にして、自分たちが暮らす町の課題に取り組むことを最終段階にできれば、さらに学習を深化発展させることができると思う。

流行歌を活用した戦後史学習

●奈良県公立中学校教諭

●1. はじめに

学校教育の場で流行歌は、低俗なものとして長い間避けられてきた。しかし、毎年数多くの曲が作られては消えていく中で、その曲が「流行歌」になりえたのは、大衆の琴線に触れたがゆえであり、流行歌は見えにくい大衆の心情を解き明かす有力なツールになりうるのではないだろうか。そこで、その流行歌を活用した戦後史学習を提案してみたい。

まず選曲であるが、学校教育の場であるから「帰ってきたヨッパライ」のような、交通事故をパロディ化した曲は好ましくない。抽象的な歌詞の曲も避け、歴史的な意味が汲み取れる曲を選びたい。また、本人歌唱のものだけでなく、リメイク版も併せて紹介すると生徒は乗ってくる。例えば、関ジャニ∞が笠置シズ子「買い物ブギ」をリメイクしている。

●2. 戦後復興期の流行歌

この時代を代表する流行歌として、「リンゴの唄」がある(p.231)。しかし、歌詞は抽象的で、歴史教材としては内容を深めにくい。そこで、ここでは「異国の丘」(昭和23年)を取り上げてみたい。

◇NHKのど自慢のテーマソングを、ピアノで吹く。(本当はアコーディオンがいいが、ピアノで代用。下手でも教師自らが吹くのがミソ。間違いなく盛り上がる。)

教師：「これはある番組のテーマソングです。

番組名は？」

生徒：「のど自慢。」

教師：「正解です。NHKの長寿番組で昭和21年から続いています。今も日曜日のお昼に放送されているよね。」

◇教師：「昭和23年の夏、この番組で歌われたことがきっかけとなりレコード化され、大ヒットした曲があります。曲名は？」

①「リンゴの唄」②「東京ブギウギ」③「異国の丘」の3択にして、異国の丘をかける。

教師：「正解は③の『異国の丘』です。知っている人いる？」(生徒の反応シーン)

◇教師：「この曲は、戦後すぐに旧ソ連領内の日本人により作詞された曲です。なぜ旧ソ連領に日本人がいたのかな？」

生徒：「旅行をしていた。」「仕事で出張していた。」「戦争で捕虜になった。」

第二次世界大戦末期の1945年8月8日、ソ連参戦により満州は占領され、降伏した日本兵約60万人はシベリアに送られる。極寒の地で強制労働に従事させられ(木材伐採や土木作業、鉄道建設など)、病気や栄養失調で5万人以上が犠牲になった(p.223)。そして、ウラジオストク郊外の炭鉱町アルチョムの捕虜収容所に抑留されていた日本人により作詞されたのが、この曲である。

収容所の演芸会で歌われていたこの曲を、抑留者の一人が、帰国後の昭和23年夏の

NHKのど自慢で歌ったのがきっかけとなり、世に知られるようになった(作曲は吉田正。その後ヒット曲を連発し、日本を代表する作曲家となる。「異国の丘」は、吉田が招集された満州で作曲した「大興安嶺突破演習」という歌が、元となっている)。

◇「ノルマ」「ラーゲル(ラーゲリ)」「ダモイ」の3語を板書する。

教師:「今かけた曲と関係あるけど、さて何語でしょうか?意味は?」「実は、すべてロシア語です。ノルマは日本語化していて、わかるよね。宿題や部活の練習で使うでしょう。ラーゲルは収容所。ダモイは帰るという意味です。3語ともシベリアの収容所にいた日本人が、戦後数年たちようやく祖国に帰国した際に持ち帰ったロシア語ですが、そこには深い意味があるよね。」

●3. 高度経済成長期の流行歌

井沢八郎の「ああ上野駅」(1964年)が使える。最近では、中学を卒業後すぐ就職する生徒は少なくなったが、当時は進学率が低かった。教師:「集団就職で東京にやってきた中卒者を何と呼んでいただろう?(金の卵)」「なぜ歌の舞台が、東京駅や新宿駅ではなく上野駅なのだろう?」

東北本線の終着駅だから。この歌は、東北から集団就職で東京にきた中卒者をイメージして作られている。また歌の部分だけでなく、セリフも聴かせたい。『今度の休みには必ず帰るから、…それまで元気で待っていてくれよなあ』という、故郷に残した両親を思う心情に涙が出そうになる。歌っている井沢八郎も、青森から歌手を目指して上京した経験を

もつ。

この時代は、流行歌の全盛期でもあるが、現代の中学生の感覚と一番合うのは、坂本九の曲である。特に「上を向いて歩こう」(昭和36年)、「見上げてごらん夜の星を」(昭和38年)は、スタンダードナンバーになっている。

「上を向いて歩こう」の歌詞は少し抽象的だが、作詞者の永六輔が文化人として自身も参加した安保闘争の敗北感を、子供の心を借りて表現した曲。「見上げてごらん夜の星を」は、定時制高校を舞台にしたミュージカルの主題歌。定時制高校生の心情を想起させたい。

●4. 平成の流行歌

昭和期の戦後流行歌を取り上げてきたが、古い曲ばかりでは、生徒に飽きられてしまう。そこで平成の曲も紹介したい。

○アラジン「陽は、また昇る」(平成20年)

クイズ番組から生まれた曲。歌詞の中で、日本生まれの商品として、インスタントラーメン・カラオケ・シャープペンシルなどを紹介。バブル崩壊後の日本を叱咤激励している。

歌詞に登場するシャープペンシル(繰り出し式)を実用化したのは早川徳次。しかし、関東大震災で工場を焼失。特許を売却して得た資金で大阪にラジオ工場をつくる。「シャープは、シャープペンシルをつくっていた会社だったんだ」と教えると、生徒は「へえ〜」。

○サザンオールスターズ「ピースとハイライト」(平成25年)

サザンオールスターズの復活第一弾CD。アジア諸国との軋轢を憂慮したメッセージソングである。関係改善のためにどうすればよいか、中学生にも考えさせてみたい。

公民的分野におけるICTを活用した協同学習の授業実践 ～スーパーマーケットの出店からマーケティングを考える～

歳納 隼人

●としのう はやと／東京都品川区立大崎中学校教諭

●1. はじめに

学習指導要領では、言語活動の充実がうたわれており、多くの実践がさまざまな研修などで報告されている。しかしながら、多くの授業者が述べている課題として「グループワークが機能しない」「話し合いをさせようとしても、課題に対する思考・判断力が高まっていると思えない」といった声を耳にする。基礎・基本の定着から習得・活用とステップを上げるために欠かすことのできない言語活動の充実を目ざした授業実践として、ICTを有効に活用した取り組みを紹介したい。

●2. ジグソー形式による学び合い

いくらICTの活用を取り入れようとしても、グループワークの構成そのものが計画的でなければ有効な活用には繋がらないと考えた。そこで学び合い、高め合うための学習のために協同学習の手法の一つとして「ジグソー形式」を用いたグループ学習を本実践の中核として位置づけた。

課題として設定したのは「わたしたちの暮らしと経済」の内容として「スーパーマーケットを出店しよう」というものである。5時間扱いで、最後の授業ではプレゼンテーションを行うというゴールイメージを持たせて、学習をスタートさせた。1グループの人数は4人を基本として行う。

1時間目の授業では、各班が「売れるスーパーの要素」「売れないスーパーの要素」につ

いてブレインストーミングを行った。ブレインストーミングは、意見を否定しないというルールがあるため、柔軟な発想でアイデアが出やすい会議方法として、企業などでも一般的に行われている手法である。出てきた意見は付箋に書いて張っていき、似た意味のまとまりに分けるグルーピングを行う(KJ法)。グループ学習には、グループ内での学びは共有されるが、グループ間の学びが共有されにくいというデメリットがあるため、シェアリングの時間を確保する。そこで電子黒板の投影機能を使い、全体に各班の中間報告を行わせる(①共有のための活用)。

この時に重要なのは、電子黒板は画面が残りにくいため、必ず他の班の発表のポイントをワークシートに記入させることで、意識的に発表内容を聴く力を付けさせる。また、この投影機能のメリットは、他の班から質問や指摘があった場合に付箋を並び替える様子などがそのまま全体に見えるため、思考のプロセスが理解しやすいという点である。

各班から売れるスーパーの要素として「きれい、清潔」「店員が笑顔」「商品が豊富」「安い」「駅から近い」などのキーワードが抽出されてくる。この段階で教員が介入し「価格」「サービス」「ロケーション」の要素が、売り上げに関わる「マーケティング」の要素であることを伝え、各班でこのテーマに対して担当者を決めさせる。各担当者は次回の授業時にパソコ

Strength (強み) 自社ブランドの商品 立地 店舗の広さ	Weakness (弱み) 価格帯が高い 客の年齢層がバラバラ 廃棄処分が多い
Opportunity (機会) マンションが周囲に多く建設中 周辺に企業の進出も計画されている	Threat (脅威) 仕入れの際のデータ分析の甘さ バイトスタッフの確保

図1 SWOT の窓

ンルーム及び図書室で資料収集を行い、その資料を持ち寄ってテーマごとの「専門分科会」を行うのである。例えば「サービス」を調べるグループはスーパーの接客や商品に関して調べた内容をシェアする。そこで得た情報を今度は自分の班に戻って班員に伝えるのである。この分科会から自身の班での情報共有までの流れが、学びを重層化するために重要であると考えられる。ここでは各グループに一台パソコンを使用させ、資料収集や原稿作成などを行わせた。タブレット端末がある場合、グループ全員で見られ、発表も電子黒板に直接繋いで映し出せるのでグループワークには非常に有効である(②情報収集のための活用)。

●3. SWOT分析

調べたことの発表をプレゼンテーションさせる形式の実践は多々報告されているが、思考・判断力は果たして向上しているのか。

ここでは自分たちのプロデュースするスーパーに関して、調べたことを元にさらに課題の解決のための議論を重ねさせる。その具体的な手法が「SWOT分析」である。

Strength (強み), Weakness (弱み), Opportunity (機会), Threat (脅威)の視点を軸に、経営的な戦略を練るところまで求めた。

SWOTの窓(図1)を各班のパソコンにプレゼンテーションソフトのシートで用意しておき、各班は話し合いをしながら直接シートに打ち込んでいく(③ミーティング時の思考整理のための活用)。

●4. ファイナル・プレゼンテーション

各班はSWOT分析を終えた段階で、かなり深く戦略を考えられるようになっている。最終的には、プレゼンテーションソフトを活用して発表を行うが、いわゆる「〇〇班は何を調べました。何がわかりました。」と、発表係だけが調べたことのみを羅列して発表するというレベルの内容ではなくなる(④表現、発信のための活用)。

ジグソー形式の分科会を通して学んだ内容を、各セクション専門の担当者が分担して発表を行う。分析的な思考、正確な情報を基にした情報提示、議論に基づいた論理的思考が、中学生ながら垣間見られることと思う。

●5. おわりに

学習指導要領には「社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養うこと。また、考えさせる場合には、資料を読み取らせて解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりするなどの工夫をすること」とある。

今回の授業実践の紹介では、上記の目標達成のための具体的な手段を盛り込んだつもりである。協同学習の視点を軸にした学び合い活動の中で、ICTをどの場面で用いれば生徒の思考・判断・表現力等が向上するのか、という視点で授業を構成した。今回の実践では①～④のICT活用方法をご紹介した。とするとICT活用の推進を意識するあまり、かえって学びの効率を落とすことになりがちである。常に生徒の視点に立ち、効果的な学びのために教材吟味及び授業改善を心掛けたい。



第12回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2014年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募可)
応募期間	2014年 7月1日 ~ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



ぼくらは、守られている

この写真なんだかわかりますか。これは、ぼくの小学校の前の道だ。この道には、青とオレンジと白色の三角のものがたがった形の変ったもようがかかっている。これは、ソリッドシートという名前のもよう、車を運転する人には、道がでこぼこしているように見えて、注意し、ゆっくりと走ってもらうためのものだそう。ただの落書きではなく、ぼくたちみんなを守るためにえがかれていることがわかった。ぼくらが毎日安全に登校できるのは、このような変った形のもようのおかげなんだなあと思った。運転手さん、このまようを見たら、ゆっくりやさしく走ってくださいね。

【表紙写真】シンガポール最大の植物園施設、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ。奥にはたくさんの貨物船が見え、世界最大級のシンガポール港のにぎわいがうかがえる (上写真)。TVCM などでもおなじみのマライオン。背後にはダウンタウンの高層ビル群がそびえる (下写真)。[2014年 シンガポール]

中学社会通信 Socio express (2014年 秋号)

2014年9月1日 発行

編集：教育出版株式会社編集局
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411